令和元年度事業報告

学校法人 順正学園
Junsei Educational Institution

令和元年度　事業報告

Ⅰ．法人事業報告

1. 事業の概要

順正学園は昭和 42 年に創立して以来、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念に基づいて、特色ある教育研究体制の充実に努めています。

令和元年度も、地域社会及び国際社会にも貢献できる学園づくりを目指し、国際交流、ボランティア活動、更にはスポーツ交流、産学官連携事業にも積極的に取り組みました。吉備国際大学では、岡山駅前キャンパスに留学生別科を開設するとともに、岡山市北区の厚生町寮を改修し、外国人留学生の受け入れ体制を強化しました。九州保健福祉大学では三カ年計画で実施した空調設備更新が完了し、また厚生棟改修など学修環境の整備を行いました。

また、各設置校においては、第二期中期目標・中期計画を策定し、建学の理念の実現に向けた様々な教育研究の取り組みが実施されました。

国内外の教育提携・高大連携にも積極的に取り組み、今年度は特に、マレーシア、中国の 2 校と協定を結び、海外の教育交流協定校は 29 か国 85 校 2 施設となりました。学生募集に関しましても、中国、韓国、ベトナム、インドネシア、スリランカ、カンボジアから春入学、秋入学合わせて 173 名の留学生が入学しました。

さらに、学園 50 周年記念事業として開始した「順正デリシャスフードキッズクラブ」、「順正ジョイフルキッズクラブ」は、地域社会への貢献と同時に、学生がボランティア精神を身につける教育提供の場として、体制づくりや組織強化を行い、活動を一層充実しました。

（取り組みの詳細についてはそれぞれの報告に掲載）

Ⅱ．大学の概要

各設置校の入学者･学生数等の状況

単位（人）

	吉備国際大学							九州保健福祉大学				
	学部	通信学部	大学院博士（後期）	大学院博士（前期）	通信大学院修士	通信大学院博士	留学生別科	学部	大学院博士	通信学部	通信大学院修士	通信大学院博士
入学者	428	6	4	15	25	0	33	251	0	78	21	2
編入･再入学者	22	31	－	－	－	－	－	4	0	61	－	－
10 月入学（編入・再入学含む）	49	－	0	3	－	－	－	0	－	18	－	－
5/1 学生数	1,664	124	14	39	68	6	33	1,523	6	508	28	20
内留学生	242	－	0	15	－	－	33	20	0	0	0	0
卒業者	406	22	－	－	－	－	－	336	0	145	－	－
修了者	－	－	1	14	32	0	22	－	3	－	7	2
退学者	58	7	0	0	4	0	6	45	0	19	2	0
満期退学者	－	－	0	－	－	－	－	－	0	－	－	4
除籍者	8	1	0	0	0	0	1	4	0	27	1	1
休学者	32	9	0	0	3	0	－	31	0	22	3	3
留年者	38	30	0	3	8	2	4	120	2	60	1	5

単位（人）

	順正高等看護福祉専門学校	九州保健福祉大学総合医療専門学校	合 計
入学者	55	65	983
編入学者	0	0	118
10 月入学（編入・再入学含む	0	0	70
5/1 学生数	128	190	4,351
内留学生	10	0	320
卒業者	47	53	1,009
修了者	－	－	81
退学者	8	4	153
満期退学者	－	－	4
除籍者	3	0	46
休学者	6	9	118
留年者	4	7	284

Ⅲ．法人の概要

１．理事・監事・評議員

（令和元年５月１日現在）

区　　分	定　　員	現　　員			備　　考
		常　勤	非常勤	計	
理　事	９～１３	４	７	１１	
監　事	２	１	１	２	
評議員	２７～３２	２０	７	２７	

２．専任教職員

（令和元年５月１日現在）

	教員数	職員数	備考
法人本部	－	９	出向者等含む
吉備国際大学	１４３	５６	
九州保健福祉大学	１１８	４３	
順正高等看護福祉専門学校	１６	４	
九州保健福祉大学総合医療専門学校	１５	６	
合　　計	２９２	１１８	

Ⅳ．各事業の概要

１．設置関係

（１）九州保健福祉大学臨床心理学部臨床心理学科開設（令和２年４月）
（令和元年６月 26 日設置届出書提出）
（令和元年８月 30 日受理）

（２）吉備国際大学留学生別科収容定員増（40 名→160 名）（令和２年４月）
（令和元年 12 月届出）

（３）吉備国際大学、九州保健福祉大学、順正高等看護福祉専門学校、九州保健福祉大学総合医療専門学校における教育・研究の更なる充実を図る。

２．入試･広報活動

(1) 入試関係　　2020.5.1(現在)

ア　志願者・入学者の状況　　（単位　人）

区分	設　置　校	志願者	入学者	入学定員	充足率
一年次	吉備国際大学	1,020	467	540	86.5%
	九州保健福祉大学	718	256	340	75.3%
	順正高等看護福祉専門学校	45	30	100	30.0%
	九州保健福祉大学総合医療専門学校	98	50	60	83.3%
	計	1881	803	1,040	77.2%
編入学	吉備国際大学	22	18	14	128.6%
	九州保健福祉大学	5	4	10	40.0%
	計	27	22	24	91.7%
大学院	吉備国際大学	17	16	48	33.3%
	九州保健福祉大学	0	0	4	0.0%
	計	17	16	52	30.8%
大学院（通信）	吉備国際大学	26	26	65	40.0%
	九州保健福祉大学	12	10	35	28.6%
	計	57	36	100	36.0%
	合　　計	1,963	877	1216	72.1%

イ　設置校別の受験・合格・入学の状況

（ア）吉備国際大学

（単位　人）

学部	社会科	保健医療福祉	心理	農	アニメ	外国語	合計
入学定員	160	180	90	90	40	50	610
志願者数	231(35)	298(195)	131(66)	165(43)	65(32)	130(85)	1,020(456)
受験者数	213(29)	290(192)	126(63)	157(42)	62(30)	124(82)	972(436)
合格者数	205(24)	278(188)	119(60)	148(38)	61(30)	118(79)	929(419)
入学者数	136(16)	90(42)	63(31)	63(31)	44(23)	66(41)	467(165)

（　　）は女子内数

（イ）九州保健福祉大学

（単位　人）

学　部	社会福祉	臨床心理	薬	生命医科	合計
入学定員	80	40	140	80	340
志願者数	36(15)	108(72)	331(201)	193(101)	718(404)
受験者数	33(10)	107(71)	326(198)	189(99)	707(404)
合格者数	32(10)	104(69)	319(195)	182(97)	689(390)
入学者数	22(8)	48(35)	94(54)	66(34)	256(136)

（　　）は女子内数

（ウ）順正高等看護福祉専門学校

（単位　人）

学　科	看護科	介護福祉学科	合計
入学定員	60	40	100
志願者数	36(15)	9(2)	45(13)
受験者数	33(10)	9(2)	42(12)
合格者数	32(10)	9(2)	41(12)
入学者数	22(8)	8(2)	30(10)

（　　）は男子内数

（エ）九州保健福祉大学総合医療専門学校

（単位　人）

学　科	看護	合計
入学定員	60	60
志願者数	98(10)	98(10)
受験者数	96(10)	96(10)
合格者数	86(7)	86(7)
入学者数	50(4)	50(4)

（　　）は男子内数

（２）広報関係
ア　オープンキャンパス

設　置　校	開催回数	参加人数
吉 備 国 際 大 学	8	1,695
九 州 保 健 福 祉 大 学	3	1,058
順正高等看護福祉専門学校	8	119
九州保健福祉大学総合医療専門学校	3	147

イ　その他

（ア）学園（各設置校）の魅力と入試情報の発信

年間を通じて、高等学校訪問、進学説明会、などに取り組み、学園（各設置校）の魅力学科改編に関する情報、入試要項など学生募集に関する情報を受験生、保護者、進路関係者などに周知した。

（イ）海外留学生の確保

海外支局長が中心となり、中国・韓国・インドネシア・ベトナム・スリランカなどからの留学生の確保に積極的に取り組んだ。

その結果本学園における設置校留学生の入学状況は次のようになった。

入学者状況　平成３１年度秋学期　（単位　人）

設置校	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	大学院	合　計
吉備国際大学	44	5	6	0			3	58

入学者状況　令和元年度春学期　（単位　人）

設置校	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	大学院	合　計
吉備国際大学	81	8	2	0			4	95
吉備国留学生別科	66							66
九州保健福祉大学	5	0	0	0			0	5
順正高等看護福祉専門学校	8							8
合　計	160	8	2	0			4	174

３．ボランティアセンター

（１）吉備国際大学・順正高等看護福祉専門学校

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズ（ＤＦＫ）クラブ】

○順正ＤＦＫクラブによる食料支援

・岡山で日本最初の孤児院を設立した石井十次が唱えた「満腹主義」の精神に基づき、生活困窮世帯の子ども達にお腹いっぱい食べさせることを目的に実施します。行政機関からの要請等により、岡山県内（高梁市・岡山市・倉敷市・総社市）及び宮崎県内（延岡市・宮崎市・日向市・高鍋町・門川町）に居住する、0～15 歳の中学生以下の子どもを養育する生活困窮世帯を対象に、月 1 回、主食・副食・嗜好品を取り混ぜた食料の支援を行います。支援食料は学園が中心となって購入するほか、企業・団体・個人から、外箱の破損、返品、防災品の入れ替え等により、商品として流通しなくなったもの等を無償で寄付していただき確保していきます。（令和元年度は、延べ 1245 世帯に配送。順正学園が購入した食料品（計 6323.475 ㎏、計 2,955,017 円。前年～計 4820.59 ㎏、計 2,237,855 円）をはじめ企業・団体等から寄贈された米やその他食料品（計 7887.38 ㎏、1 ㎏あたり 600 円で換算～計 4,732,428 円相当。前年～計 9167.37 ㎏、1 ㎏あたり 600 円で換算～計 5,500,422 円相当）など、計 12 回、14371.1 ㎏（前年 12654.7kg）を配送しています）

・発送作業は主に職員と学生ボランティアが従事します。配送日までの合間は、学生たちとともに精米や袋詰め、段ボール箱の組み立て、賞味期限のチェックなどにあたります。フードドライブなども随時実施します。（第 3 木曜月 1 回の配送に合わせ、第 1～2、4 週にかけて、ボランティアセンターの学生スタッフをはじめ、吉備国際大学の一般学生、地域貢献ボランティア授業の履修学生、留学生、順正高等看護福祉専門学校介護福祉学科の学生らがボランティアとして参加。フードドライブは 12 月～2020.1 月に実施）

・子ども支援セクションにおける順正ＤＦＫクラブ、順正ジョイフルキッズクラブ（ＪＫＣ）の報告会を実施する。（11/18、岡山駅前キャンパスにて、順正ＤＦＫクラブ報告会を実施。2/17、九州保健福祉大学にて、順正ジョイフルキッズクラブを含めた報告会を実施）

②災害復興支援セクション

○西日本豪雨災害復興支援ボランティアの継続（ボランティア情報収集等継続中。関連ボランティアとして、地域サロン活動の一環で 11/10、市内の女性団体と親子連れを対象にした防災ワークを開催）

○東日本大震災・熊本地震復興支援ボランティアの継続（ボランティア情報収集等継続中）

○有事に伴う災害ボランティア復興活動・募金活動の実施（西日本豪雨災害関連～4/6.7 に高梁市本町地区で開催された町家通りの雛祭りにて、学生スタッフが手作

りカレーを販売。その売り上げは高梁市社会福祉協議会を通じて寄付。台風 19 号災害関連～10 月に東日本一帯を襲った台風 19 号の被害に対して、学生スタッフらが街頭募金を実施。伊賀祭での販売の一部も寄付に充てるなどし、同じく高梁市社会福祉協議会を通じて、104,079 円を寄付）

○災害ボランティア研修会・セミナー等の参加・開催（未実施）

○災害ボランティアセンター設置・運営訓練等の開催（未実施）

○備蓄物資仕分けボランティアの実施（公設国際貢献大学校）（未実施）

○調査、研究の実施（随時実施中）

③地域貢献セクション

○高梁市、地元住民等からの要請に応えたボランティア活動の実施

・本町地区「町家通りの雛まつり」（4/6・7、高梁市本町地域で実施）

・栄町商店街への活動支援（わくわく子どもフェスタ 21、手作り遊び教室）（6/15、高梁市栄町商店街でわくわく子どもフェスタ 21 に参加。毎月第 2 土曜日、同所にて手作り遊び教室を実施）

・「わっしょい高梁!!のびのびサロン」の開催（本年度は①アロマハンドマッサージサロン　日時：5/18、場所：養護老人ホーム「ゆうゆう村」、参加者：順正学園ボランティアセンター学生スタッフおよび施設入居者ら約 50 名。②防災ワークサロン　日時：11/10、場所：高梁市役所、参加者：順正学園ボランティアセンター学生スタッフおよび地域の高齢者と親子連れ約 20 名）　等

○教務課と連携した授業としての地域貢献ボランティア活動への協力（教務課の実施する授業に協力）

○地域貢献ボランティアフォーラム（第 20 回ボランティア実践発表シンポジウム）の開催（1/26、高梁市文化会館で開催）

○要請組織へのボランティアの派遣（随時実施中）

○清掃活動や小学生ら登下校時の声かけ運動（毎週月曜日、ももパト隊として実施）

④国際貢献セクション

○国際協力ボランティア活動の実施検討

・岡山発国際貢献推進協議会との連携による各種活動（未実施）

⑤障がい学生支援セクション

○聴覚障がいを有する学生（1 名）に対する授業時のノートテイク実施（遠隔システムを利用したノートテイクの導入）（春学期はノートテイクを必要とする希望授業がなかったため導入無し。秋学期は 1 週あたり 2 講義で実施。いずれも増減あり。2 講義とも、外部委託のノートテイカー1 名を配置し、遠隔テイクで対応）

○ノートテイク支援に関する業務（入学宣誓式など学内行事で実施。学位授与式は新型コロナウイルス対応で未実施）

○ノートテイカー養成講座の開催（希望者に対して随時開催）

○「ICT を活用した情報保障の高度化についての研究」の実施（学生を対象にしたノートテイカー養成のためのトレーニングシステムサイトの構築等）（随時実施中）

○障がい学生支援に関する情報収集と他機関、他大学との連携を強化（随時実施中）

⑥その他・活動支援

○関係機関・団体との連携

・岡山県ボランティア・NPO 活動支援センター（ゆうあいセンター）（10/16、同センターで開催された大学ボランティアセンター連絡会に参加。県内 7 大学のボランティア関係学生及び職員が出席）、県内他大学ボランティアセンターとの連携を強化（研修合宿、交流会等の開催を中心に交流を実施。11/30、12/14、岡山理科大学科学ボランティアセンターとの相互訪問及び、1/19、岡山市内にて学生スタッフ間の交流会を実施）

・全国のボランティアセンターとの交流・セミナーへの参加（9/2.3、大阪市内での学生スタッフを対象とした大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2019 に参加。9/11.12、首都大学東京でのボランティアセンター職員を対象とした大学ボランティアセンター全国フォーラム 2019 に参加。2/12.13、大阪市内で開催された大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナー2020 に参加）

・高大連携校との連携を強化（高梁高校、高梁城南高校がシンポジウムに参加）

・高梁市、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト等との連携を強化（2/16、美作大学にて、国際ソロプチミスト高梁と、その下部団体シグマソサエティによる交流会に参加。ＤＦＫ関連で、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミストから寄付・寄贈をいただくとともに、作業のボランティアでも連携）

・学内ボランティア団体との連携を強化（随時連携中）

・順正ＤＦＫクラブとして、県内及び全国規模のフードバンク団体・協議会等との連携を強化（9/10、フードバンク山梨を視察。9/13、全国フードバンク推進協議会を視察）

・岡山県学生防犯ボランティア連絡会（おにたいじ）への参加

○学生スタッフ企画による順正学園ボランティアセンター研修合宿の開催（6/22.23、美作市大芦高原キャンプ場。学生スタッフ 1～3 年生 23 名が参加。ボランティアセンター独自の新入生向け研修合宿として、学生スタッフとしての役割を再確認し、今後のセンターの活動に反映させるのが目的）

⑦広報・啓発

○広報誌の発行【4 月～新入生歓迎特別号、11 月～ＤＦＫクラブ報告会・感謝の会用冊子（2019 年度の活動状況報告書としても転用）を発行】

○ＨＰ、facebook 等による情報発信

順正ＤＦＫクラブＨＰ http://volcen.kiui.ac.jp/jei-dfk/

順正学園ボランティアセンターＨＰ http://volcen.kiui.ac.jp/index.html

同 Facebook https://www.facebook.com/jei.volcen/

（２）九州保健福祉大学・九州保健福祉大学総合医療専門学校

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズクラブ（ＤＦＫ）】

引き続きフードドライブを実施する。

フードドライブ用のファイバードラムを常設し、提供品の募集を行っている。

⇒ファイバードラムだけなく、学内イベント等においてやむなく余剰となってしまった飲料品などについても提供品としての呼び掛けを実施した。

【順正ジョイフルキッズクラブ（ＪＫＣ）】

昨年度は 18 回実施したが、今年度は 20 回の実施を計画している。また、学生ボランティアや教職員ボランティアの確保など実施体制の強化を図り、継続可能な実施体制づくりを行う。

⇒延岡市委託事業「ひとり親家庭等学習支援事業」として、貧困家庭の中学生に対し、月 2 回、土曜日に本学会場にて、本学の学生ボランティアと共に、午前中は学習支援を行い、午後から調理実習と昼食会を開催している。20 回の実施計画であったが、残念ながら台風接近に伴い中止が 1 回発生したため 19 回の実施となった。開催にあたっては学生ボランティアや外部講師の方々、大学関係者の支援によって強いサポート体制を構築することができた。29 名の中学生が登録をして、開催ごとに約 12～20 名が参加した。また、学習ボランティアとして学生ボランティアが延べ 112 名、外部講師（延岡はげまし隊、教員ＯＢ、延岡市役所職員など）延べ 83 名、大学教職員延べ 59 名による学習支援が展開された。

②地域貢献セクション

ボランティア要請に基づき、地域の各行事に学生を派遣する。

⇒各所から要請のあったボランティアに対し、学内で募集を行い、学生を派遣している。大学共通基礎科目に開設する「ボランティア活動」科目の履修登録者は 32 名で、延べ 515 名が参加した。（R2 年 3 月末現在）

③障がい学生支援セクション

障害者差別解消法に基づき、障がい学生に対する合理的配慮について対応検討する。

⇒障がい学生に関する合理的配慮の基本方針の制定と規程を整備した。

④災害復興支援セクション

有事に伴う災害ボランティア復興活動・募金活動の実施

⇒台風 17 号に伴う延岡市竜巻等被害に対し、延岡市に義援金の贈呈を行なった。この義援金は社会福祉学部の学生が中心となり、11 月に開催された九保祭での募金活動をはじめ、コンビニなどに募金箱の設置依頼、学生や教職員に募金の呼び掛けを実施した結果、延岡市に 48,980 円を贈呈することができた。

４．国際交流関係

A. 教育交流協定の締結

1. 2019 年 10 月 24 日　マレーシア　ニライ大学と教育交流協定を締結

2. 2019 年 11 月 28 日　中華人民共和国　北京培黎職業学院と教育交流協定を締結

B．教育交流協定校への学生派遣

１）－１短期研修

大　学　名	期　　間
~~イタリア　　ボローニャ大学~~	~~2020 年 3 月から派遣予定　数名~~
フィリピン　　国立大学ロスバニョス校	~~2019 年 9 月中旬から派遣予定（九保大のみ）~~ 0 名

1）　－2短期研修（吉備国際大学外国語学部のみ）

派　遣　先	期　　間	人　数
米国　　ﾌｫｯｸｽﾊﾞﾚｰﾃｸﾆｶﾙｶﾚｯｼﾞ	2019 年 8 月～2019 年 12 月	１名　派遣済
米国　　UC サンディエゴ	2019 年 12 月～2020 年 3 月	１名　派遣済
ドイツ　　F+U アカデミー	2019 年 8 月～2019 年 10 月 2020 年 2 月～2020 年 3 月 ~~2020 年 2 月～2020 年 4 月~~	２名　派遣済 ２名　派遣済 ~~１名~~
ベトナム　　Quy Khanh 日本語学校	2019 年 9 月～2019 年 12 月	１名　派遣済
フィリピン　3D ~~アカデミー~~+テレネット	2019 年 9 月～2019 年 12 月	１名　派遣済
~~オーストラリア　Embassy Australia~~	~~2020 年 1 月～2020 年 3 月~~ ~~2020 年 2 月～2020 年 3 月~~	~~１名~~ ~~１名~~
オーストラリア　EC Language School	2020 年 2 月～2020 年 3 月	１名　派遣済

２）－１短期留学

大　学　名	期　　間	人　数
米国　ハワイ大学ヒロ校	2019 年 8 月～2019 年 12 月	吉備国際大学　　１名　派遣済
韓国　清州大学	2019 年 8 月～１年間	吉備国際大学　　１名　派遣中

※コロナウイルス感染症の影響により、清州大学留学者は、2020 年 4 月より帰国中（半年）

２）－２短期留学（吉備国際大学外国語学部のみ）

大　学　名	期　　間	人　数
~~米国　ニュージャージーシティ大学~~	~~2019 年 9 月～2019 年 10 月~~	~~１名~~
米国　ナショナル大学	2019 年 8 月～2019 年 12 月	１名　派遣済

３）短期交換留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大　学　名	期　　間	人数
米国　　フィンドリー大学	2019 年 8 月～2019 年 12 月	1 名　派遣済
米国　　ニュージャージーシティ大学	2019 年 8 月～2019 年 10 月 2019 年 8 月～2019 年 12 月	1 名　派遣済 1 名　派遣済
米国　　ライト大学	2019 年 8 月～2019 年 12 月	1 名　派遣済
カナダ　　オカナガン大学	2019 年 8 月～2019 年 12 月 2019 年 12 月～2020 年 3 月	1 名　派遣済 1 名　派遣済
カナダ　　ニューカレドニア大学	2019 年 8 月～2019 年 11 月 2019 年 8 月～2019 年 12 月 2019 年 12 月～2020 年 4 月	1 名　派遣済 2 名　派遣済 2 名　派遣済
イタリア　ボローニャ大学	2019 年 9 月～2020 年 2 月 2020 年 2 月～2020 年 4 月	1 名　派遣済 1 名　派遣済
ﾘﾄｱﾆｱ　　シャウレイ大学	2019 年 1 月～2019 年 6 月 2019 年 8 月～2019 年 12 月 2020 年 1 月～2020 年 6 月	2 名　派遣済 2 名　派遣済 2 名　派遣済
イギリス　サンダーランド大学	2019 年 10 月～2020 年 1 月	1 名　派遣済
韓国　　釜山外国語大学	2019 年 8 月～2019 年 12 月	1 名　派遣済
台湾　　実践大学	2019 年 2 月～2019 年 4 月	1 名　派遣済

Ｃ．教育交流協定校からの学生受入れ

１）短期研修

大　学　名	期　　間	人　数
米国　　フィンドリー大学	2019 年 6 月 24 日（月）～ 2019 年 7 月　1 日（月）	8 名　受入済
カナダ　　ニューカレドニア大学	2019 年 6 月 17 日（月）～ 2019 年 7 月　1 日（月）	2 名　受入済
カナダ　　オカナガンカレッジ		4 名　受入済
イタリア　ボローニャ大学	2019 年 7 月 20 日（土）～ 2019 年 7 月 28 日（日）	4 名　受入済

２）短期留学（吉備国際大学のみ）

大　学　名	期　　間	人数
台湾　　南台科技大学	2018 年 10 月～　1 年間	1 名　受入済
タイ　　サイアム大学	2019 年 10 月～　1 年間	1 名　受入中
韓国　　清州大学	2019 年 10 月～　半年間	1 名　受入済

３）短期留学（吉備国際大学外国語学部のみ）

大　学　名		期　　間	人数
米国	ニュージャージーシティ大学	2018 年 10 月～1 年間	１名　受入済
スペイン	バレアンス諸島大学	2019 年 10 月～半年間	１名　受入済
台湾	実践大学	2019 年 4 月～半年間	２名　受入済
台湾	致理科技大学	2019 年 4 月～半年間	２名　受入済
		2019 年 10 月～半年間	２名　受入済
韓国	釜山外国語大学	2019 年 4 月～半年間	１名　受入済

５．施設設備関係　（500 万円以上の事業（修繕工事を含む））

（１）吉備国際大学

厚生町寮改修工事　17,700 千円（実施済）

生体ガス分析用質量分析装置　8,800 千円（採　択）

（私立大学等研究設備整備費補助金）

（２）九州保健福祉大学

空調設備更新工事（大学会館）　40,000 千円（実施済）

学修環境施設改修工事　11,107 千円（実施済）

超音波診断装置（私立大学等研究設備整備費補助金）　0 円（不採択）

６．その他

FC 吉備国際大学 Charme へのスポンサー料（吉備国際大学）　6,000 千円（実施済）

吉 備 国 際 大 学

Ⅰ．令和元年度教学基本方針

吉備国際大学は、第一期「中期目標・中期計画」3 年間の総括を踏まえ、本年度から向こう 4 年間の第二期「中期目標・中期計画」を策定し、教育、研究そして社会貢献活動の一層の活性化を図る。特に、私立大学研究ブランディング事業最終年度の計画を着実に遂行するとともに全学科のブランディング発信を強力に推進し、学生定員の充足を目指して次のことを実行することを基本方針とする。

（１） 学部・学科および研究科は、３つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の実践に努め、中期目標・中期計画の初年度計画を確実に実行し、地域創成に実践的に役立つ人材の養成を行う。

（２） 国家試験合格１００％、就職率１００％および退学者ゼロ達成を図るため、教職員一丸となり改善改革策を実行する。学生の目線に立った「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎を重視して創意工夫を凝らした」指導に徹する。

（３） 私立大学研究ブランディング事業「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」の研究活動およびブランディング活動を着実に実行する。また、各学部・学科は、公開の学術講演会やシンポジウム等を開催し教育研究活動の活性化に努め、全学的にブランド力の発信に努める。

（４） ２０２１年度に向けて全学共通教養科目を見直し、社会人として求められる知識修得と人間力を養成する魅力あるカリキュラムへの再編を進める。

（５）学生が安心して学修できる環境の醸成に努める。各種の災害に対する安全・危機管理対策、ハラスメント防止およびコンプライアンス遵守を図る。

Ⅱ．各事業の概要

１．教育関係

（１）吉備アプローチの指導方針「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた基礎・基本を重視して創意工夫を凝らした指導」を徹底した学修支援体制により、退学者の減少を図る。

①新入生相互、または在学生との交流イベントを積極的に取り入れ、入学後、学生生活がスムーズにスタートできるよう支援する。

⇒矢印現状で実施していた各学科行事に加え、次年度に向けて、春学期の新入生を迎える４月から５月を「キウイバード交流月間」として、新入生オリエンテーション期間における新入生歓迎イベントの開催や 5 月に高梁市の商店街を中心に開催する「キウイバード祭」などを計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、中止となった。入学宣誓式やオリエンテーションも中止となり、オンライン授業となったため、これに代わる対策を講じる必要がある。

②新入生および在学生オリエンテーションでの履修指導を徹底するとともに、教務課において卒業要件や資格取得要件充足のチェックをし、教員に情報提供を行うことで卒業要件や資格取得要件を確実に満たせるよう指導する。
⇒春学期履修登録終了後、卒業見込み判定を行い、卒業見込みがたっていない学生に関する情報提供を各学科に行い、履修指導を依頼した。また秋学期履修登録終了後には、教員免許状取得に必要な単位修得状況についても確認を行い、卒業や資格取得の要件をもれなく満たすための指導体制をとった。

③GPA 制度に関する規程の運用方法」に基づき、成績不振学生をリストアップし、保護者面談など保護者と連携しながら、一人ひとりに懇切丁寧な学修指導を継続的に行う。１年間の学年 GPA データにより検証を行い、成績の向上を図る。
⇒年度当初に、ＧＰＡによる昨年度の成績不振学生について経過を検証し、成績が向上していない学生については継続して指導している。また例年通り、成績不振学生を確認し、継続学生とあわせて学科ごとに対象学生に対し、保護者面談などの対応を行った。

④入学前教育および「キャリア開発Ｉ」で「ＫＩＵＩドリル」を導入し、基礎学力の向上を目指す。教務課とキャリアサポートセンターで連携して学生を支援して円滑な実施を目指す。
⇒昨年度の新入生から入学前教育としても「ＫＩＵＩドリル」を導入し、１年生春学期の必修科目である「キャリア開発Ｉ」での利用と合わせて、１年間の基礎学力向上の学習コンテンツとして活用した。今後は、実施率や学力の向上等についてデータを検証し、内容の充実を図っていく必要がある。

⑤教職員全員で学生に積極的にあいさつ、声掛けを行い、相談しやすい雰囲気づくりに努め、学修や学生生活に関する学生の不安、ゼロを目指す。
⇒各学科や事務室での学生応対について、一人ひとりに懇切丁寧な応対を心がけるよう努めた。

（２）教育における学生の満足度向上のため、魅力ある教育プログラムへの再編を進める。
①全学共通教養科目の見直しを行い、2021 年度変更に向けて全学教養教育委員会において各学科と連携しながら検討を進める。本学独自の魅力あるカリキュラムを打ち出し、他大学との差別化を図る。
⇒全学教養教育委員会を開催し、検討を進めた。検討を進めるにあたり、本学の「育成する人材像」として、「キビコクのちから」を先行して策定し、これに基づいて、今後のカリキュラム編成を行うこととし、継続して審議している。

②専門教育科目については、法改正に伴う理学療法学科・作業療法学科の変更を９月末までに変更承認申請を滞りなく行う。また、教養教育科目の 2021 年度変更に合わせて看護学科などいくつかの学科について、あわせて検討を進め、特色あるカリキュラムへの再編を目指す。

⇒理学療法学科及び作業療法学科の専門科目については、法改正に則り変更するとともに、社会変化に対応した新科目や基礎演習を導入するなど本学の特色を盛り込みながら編成し、９月末に変更承認申請を滞りなく行った。看護学科についてもすでに検討に着手しており、２０２１年度のカリキュラム変更を目指している。

③すべての学科で導入された「地域学概論」と「地域貢献ボランティア」について、検証を行い、さらなる内容の充実を図る。特に高梁キャンパスの地域貢献ボランティア活動については、今年度よりボランティア先、活動方法を見直し、より教育効果の高い新たな方式で実施する。

⇒高梁キャンパスの「地域貢献ボランティア」は、学生が地域と積極的に関わり、目的を持ったボランティア活動をするために、高梁市内の６事業所等に絞って依頼し、１か所で継続して活動することで、地域の課題解決のために考え、実践できるよう内容を変更した。

（３）国家試験等対策に全学、各学科をあげて取り組み、全ての国家試験の合格率を全国平均以上とする。また教員採用試験についても、教職センターを中心にデータの分析や学生への情報提供を積極的に行い、対策講座の実施などにより合格者増を図る。

⇒各学科において国家試験対策の方法について再検討し、今年度よりカリキュラムを変更した理学療法学科、作業療法学科では、１年次から基礎演習を取り入れ、初年次から基礎学力の向上や国家試験対策が実施できる体制とした。また大学全体では、国家試験勉強に集中できるように自習室の確保やラーニングサポートセンターや図書館の開館時間の延長などを行った。

（４）留学生の教育指導体制の充実を図り、日本語能力試験Ｎ２の合格率をさらに向上させる。また日本人学生による学修支援などの交流事業を積極的に行い、留学生の学修、生活全般について支援する。

⇒Ｎ２を取得していない留学生のために、日本語関連科目Ｉの授業では能力別のクラス編成にしているが、秋学期からはレベルの低いクラスを１クラス増設し、より少人数で効果的な授業ができるよう徹底したＮ２対策の授業を実施した。

さらに、非漢字圏の東南アジアからの留学生が増えていることから、漢字対策を授業の中で取り入れ、ラーニングサポートセンターでは日本人学生による漢字対策講座も開講した。

またアジア村では、各国の留学生による国際交流イベントを実施し、留学生と日本人学生との交流も積極的に行った。

２．通信教育関係

（１）効率的な募集活動を実施しするとともに新たな広報戦略により入学者数の増加を図る。

①入学説明会の会場を増やしたことについての広報を効果的に行い、説明会への来場者増加を目指す。

⇒入学説明会の開催について、岡山駅、倉敷駅、広島駅、米子駅、松江駅、出雲駅、鳥取駅、福山駅にデジタルサイネージ広告を掲載した。

②インターネット広告、特にリスティングを中心に広報を行う。また、タウン情報誌とｗｅｂタウン情報誌のセットによる広告により、幅広いターゲットから入学説明会への参加者増を目指す。

⇒リスティング広告を掲載するとともに岡山県、広島県でのタウン情報誌への広告掲載及びｗｅｂダウン情報への広告掲載を行った。また、引き続き岡山県、広島県についてタウン誌への広告掲載を行うとともに、香川県でも行った。

③岡山駅前キャンパス、高梁キャンパス、広島、高松、福山、島根で入学説明会を行う。

⇒岡山駅前キャンパス、高梁キャンパス、津山、広島、高松、福山、島根で入学説明会を行った。また、私立大学通信教育協会主催の入学説明会に東京、福岡、岡山で参加した。

④入試広報室と連携して、高校訪問の際に通信教育のパンフレットを配付し、大学に通信教育があることを認知してもらうことで、１年生からの入学生を増やす。

⇒入試広報室と連携して、高校訪問の際に通信教育のパンフレットを配付した。

⑤提携した株式会社ミツバファクトリー・日本リラクゼーション業協同組合との連携を強化し、職員対象説明会の開催など広報活動を行う。

⇒株式会社ミツバファクトリー・日本リラクゼーション業協同組合と連携し、高校訪問で通信教育のパンフレットを配布していただくとともに高校生及び高校の進路指導の先生を対象に３回の説明会をおこなった結果、２名の就職者があり、同時に本学に入学した。また、すでに働いている方も２名入学し、合計４名の方が入学した。

（２）学生の満足度を向上させることで退学者を出さない体制を構築する。

①学修相談会を岡山・広島の２会場で開催する。また、高梁会場については随時受けることにより、学生満足度を向上させる。

⇒３月に学修相談会を岡山駅前キャンパス及び広島にと行う予定だったが新型コロナウイルスの影響により、書面でのやり取りとなった。高梁では随時行っており、本年度も数名相談に来た。

②教員と事務職員が協働で、より丁寧な学生対応を行うことにより、学生満足度を向上させる。

⇒気軽に学生の相談に乗れるように体制づくりのため、令和２年度に向けてチューター制度を導入することになった。また、学生に対してアンケートを実施し、要望があった事項については、教員と相談し検討を行った。

③教員免許状を取得し、さらに教員採用試験に合格するために対策講座などの充実を図った。

⇒教員採用試験対策講座を行った結果、広島県にて６名の教員採用者があった。

④相談が多い資格関係についてＱ＆Ａ集を作成し、学生にわかりやすくする。

⇒次年度に向けて、課員が手分けをして資格に関してのわかりやすい資料を作成した。

３．研究関係

個々の教員及び研究組織による研究の活性化を促進する。

（１）リサーチパーク研究発表会などによる県内での研究連携を推進する。

⇒リサーチパーク研究発表会およびおかやま生体信号研究会例会で発表を行った。

（２）共同研究費を効果的に配分し科学研究費の新規採択件数を８件以上に増やす。

⇒科学研究費の新規採択件数は 7 件であった。８件以上は達成できなかった。

（３）産学官連携を推進して自治体・産業界・他大学等との連携協定を結ぶなどの対を進める。

⇒自治体・産業界・他大学等との連携協定を結ぶ努力をしているが、未達成である。

（４）大学院組織（通学制５＋通信制５＋研究所３）の連携強化と教育研究活動の活性化のために、附属研究所を活用し、吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催する。

⇒吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを大学院説明会と同時開催した。

（５）「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の学内周知と教育研修としてコンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を実施する。

⇒コンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を実施した。

（６）JST の教員研究業績登録システム　researchmap に全教員の教育研究業績を 9 月末と 3 月末に登録する。博士論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開する。

⇒全教員の教育研究業績を 9 月末と 3 月末に登録し、博士論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開した。

４．就職・進路指導計画

１）就職目標 100%

・学生の卒業後の進路希望について全学生を把握し、各学科および学外就職関連各所との連携、情報収集・共有等により、第一希望の進路が決定できるよう各学生に応じた的確なサポートを行う。

⇒令和元年度就職率 98%

キャリアサポート委員との連携により、各学科の進路希望状況および就職内定・決定状況を早期に把握することで各学生に応じた的確なサポートを行うことができた。国家試験合格に向けて不安を抱え、本格的な就職活動が合格発表後になることが想定された学生については、事前に関係学科と密接に連携を図り、個別支援にあたった。

しかし、新型コロナウイルスの影響で採用試験日延期等となり、採用までには至らなかった学生もいる。また、就職意欲が低い学生については、学生個々の状況を把握し支援に務め、キャリアスタッフとの情報共有により、令和元年度の就職率（就職希望者に占める就職決定者の割合）は昨年度より 1%伸び 98%であった。就職未決定者については卒業後も本人・保護者と連絡を取り合い、年度を越えてサポートを継続している。

（２）卒業者数に占める就職希望者数の割合目標 90%以上

・大学へ進学した目的をキャリア開発等の講義を通して明確にし、学生のキャリア意識を高めることで就職への意欲を持たせる。留学生へのサポートを強化し、特に帰国希望者の状況把握、個別指導に注力する。

⇒令和元年度就職希望率 86%

キャリア意識を高めるため、キャリア開発の講義や各種就職関連イベント・説明会等への参加を積極的に促し、学生面談等の個別支援においても課員一丸となり支援し昨年度より 2.2%伸ばすことができたが目標値は未達成であった。留学生支援については担当者を明確にし、課員間での情報共有も行ってきたが就職希望留学生の割合は下がってしまった。

国家試験に関係する学科（看護・理学・作業）の就職は年々難易度（第一希望での就職）が上昇しているため、学内での就職関連イベントの内容を煮詰め、また、基礎学習支援のため新たに導入した kiui ドリルのほか、就職支援担当部署として国家試験合格にも寄与することができる内容を検討していく。

（３）岡山県内（高梁・岡山キャンパス）・兵庫県内（南あわじ志知キャンパス）への就職率 40%以上。

・大学が所在する地元の各団体等と連携し、地元事業所の情報および魅力を積極的に発信することで学生の地元就職への関心を高める。

⇒令和元年度岡山県内（高梁・岡山キャンパス）就職率 37.2%、兵庫県内（南あわじ志知キャンパス）就職率 36.6%

地方大学として地方創成・貢献の観点から、地元就職の重要性を部署内で共通認することで各キャンパスでの就職サポートにあたった。令和元年度は、新型コロナウイルスの関係で秋学期開催予定だった学内就職面談会や、岡山県内の病院の説明会等開催できなかったが、学生の地元就職への関心を高めるため、高梁キャンパスでは学内にて岡山県内の企業単独説明会、また、高梁川流域の業界説明会の参加周知を行ってきた。昨年度よりも若干%は伸びたが、目標値を未達成であった。新型コロナウイルスの影響で令和２年度は就職環境の変化が生じることも考えられ、地元の各団体等とも連携し、より一層地元企業・施設・病院等の情報、住環境面で魅力等を積極的に学生へ発信していく。

５.その他の事業

①空調機の稼働、節電、節水等の啓蒙を推進する。４

例年同様に、省エネ推進活動として「環境マネジメントシステム（EMS)」活動を実施し、環境負荷削減の取り組みを実施している。

また、庶務部で空調機の稼働・エレベーターの稼働等を学生の夏季休業に併せて無理のない範囲で稼働減を行った。

②挨拶運動、交通事故防止のための技術指導を中心としたマナー教育を推進する。

⇒挨拶運動と清掃活動をボランティア学生と女子サッカー部員がJR高梁駅前において、毎週月曜日の朝７時より実施している。

また、交通事故防止に関する交通マナー教育として、運動部の学生を中心に警察主催による二輪車の運転実技指導を６月に、安全運転講習を１１月に実施した。

③各キャンパスの学生間の交流を図るために、学友会が主催するイベントへ、学生が積極的に参加できるような支援を行う。

⇒各キャンパス間における学生交流として、

①高梁キャンパスで開催した「スポーツ大会」へは、南あわじ志知キャンパスより学生約十数名が参加し、スポーツの試合を通じて交流を深めた。

②高梁キャンパスで開催した「伊賀祭」へは、南あわじ志知キャンパス及び岡山キャンパスの学生が、飲食物等の模擬店を出店し、学生・市民などと交流を深めた。

③南あわじ志知キャンパスで開催した「くにうみ祭」へは、高梁キャンパスからは学友会執行委員・伊賀祭実行委員、留学生が参加し、高梁市をPRするためのブースと飲食物販売の模擬店の出店、岡山キャンパスからは、留学生数名が参加し、模擬店での手伝い等を通じて交流を深めた。

④留学生と日本人学生とが活発な交流を行えるように、交流イベントの充実を図る。

⇒今年度からの新たな取り組みとして、日本の生活に慣れていない新入留学生に対して、日本人学生が大学の学習や日常生活をサポートする態勢をスタートさせた。

アジア村においては、留学生と日本人学生との国際交流の促進を目的に、留学生による母国の文化や習慣などの紹介と、異文化体験ができる、「わくわくアジア村フェス」を開催している。今年度は、６月に「インドネシアデー」、７月に「ベトナムデー」、１２月には「スリランカデー」を開催し、各回約１００名の参加学生があった。

また、今年度の留学生と日本人学生との交流旅行については、１１月３０日に姫路城と好古園、１２月２１日には宮島と厳島神社への交流旅行を行い、２０２０年２月８日に予定していた香川県でのうどん作り体験と金刀比羅宮の旅行は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

九州保健福祉大学

Ⅰ．令和元年度教育方針

今年度は本学の第 2 期中期目標・中期計画（令和元年度～令和 4 年度までの 4 年間）のスタートの年となる。全学科共通の目標は、第 1 期中期目標・中期計画を踏襲し、「国家試験合格等の専門資格の取得そして、自ら考える力を高め、高度な専門知識に加えて、人々の幸せをプロデュースできる能力（知識・技能・思考力・態度）を身につける。(学生目線)」および「入学後の基礎科目から卒業研究までを通して自ら考える力を高め、学生自身の能力を最大限に引き出し、社会から高く評価される人材に育てる。(教員目線)」とし、また、教育力に新たな項目として、「学修成果の可視化」を加え、それぞれの目標達成に向け取り組んで行く。

さらに、昨年度日本高等教育評価機構による第三者評価において、評価基準に適合しているとの認定を受けたが、参考意見で指摘された項目の改善に取組んで行く。

（1）アクティブラーニングを積極的に導入し、学生が生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材に育成する。

（2）全学で e-learning システムを積極的に活用し、基礎・専門教育のみならず、卒業研究においても求められる理解力を強化するために、初年次より国語教育に取り組む。

（3）教職協働でエンロールメントマネジメントを全学的に取り組むことで、学生個々の学力・就職・生活面などをサポートし退学者を無くす。

（4）教育部門の自己点検・評価による内部質保証に取り組むだけでなく、研究部門においても、PDCA サイクルを用いた自己点検・評価を行い研究部門の質保証に取り組む。

Ⅱ．各事業の概要

1．教育関係

（1）本学にとって中途退学の防止は喫緊の課題である。中途退学の理由の大きな要因として「学力不足」が挙げられるが、防止対策として全学科において入学後のリメディアル教育の充実に引き続き取り組んでいく。特に、e-learning システム等を活用することにより、レポートを書くための作文力と専門書を読み解く読解力を中心に国語力の向上を目指す。また、出欠管理システムを活用し、授業を欠席しがちな学生を早期に把握し、チューター及び学科の教員と連携して指導を行うことにより退学防止に努めている。昨年度までは 3 回連続欠席者を対象としていたが、今年度からは 2 回連続欠席者を対象とし、さらなる中途退学者の減少を目指す。

⇒今年度も全学科において、国語力向上を目的とした e-learning システム（すらら）を活用したリメディアル教育を実施しており、一部の学科では授業にも取り入れるなど積極的に活用した。また、入学直後、中間期（前期末）及び後期末に全学統一試験（国語）を実施し、学科毎に学修成果の分析を行い、入学直後と後期末の成績を比較した結果、全体的に成績が向上していた。今後も年間を通じて学修成果の分析を行うことで、更なる活用に向けた検討材料とする。

また、出欠管理システムを活用し、2 回連続で欠席した学生についての状況を、チューター、学科教員及び関係事務部署で共有することにより、退学防止や出席状況に問題のある学生に対して指導を行い、さらに、ユニバーサルパスポートに学生プロファイルを記載し情報共有しながら退学防止に努めたが、退学者・除籍者 49 名（3.2%）という結果であった。

（２）昨年度の国家試験において、11 種の国家試験のうち、新卒者の合格率が全国平均以下となった資格が 6 種もあったことから、試験結果を分析し、試験対策の取組み方法等を見直し、各種国家試験の合格率 100%を目指すことで、全ての国家試験において合格率を全国平均以上とする。また、在学生のみならず、既卒者への国家試験合格に向けての指導も継続して行う。

⇒令和元年度の国家試験において、新卒者で全国平均以下となった資格が 6 種、さらに前々年度の合格率を大幅に下回った資格もあった。学科と連携して要因を詳細に分析し、合格率が高まるよう検討する。保健科学部では、国家試験合格率の向上について検討するランチミーティングや FD を開催した。また、既卒生に対しても希望者を対象とした国家試験対策講座や指導を継続して実施した。

（３）大学改革推進委員会が中心となり、IR 推進委員会および学園 IR 推進室により学生の入学動機や学修状況、学生生活などを調査し、その結果をもとに、大学教育改革に取り組むとともに、教育の質の向上と質保証を目的とし、学修成果の可視化を目指す。さらに、教育の充実と学生満足度の向上を図るため、全学的な FD・SD 研修会を実施する。

⇒ＩＲ推進委員会において、学生生活の現状を把握し今後の支援の充実を図ることを目的として、全学生を対象に学生生活アンケートを実施し、現在、各学科、事務部署において分析を行っている。また、学園 IR 推進室が新入生を対象にアンケートを実施した。

全学的な FD・SD 研修会として、「学修成果の可視化を考える～文部科学行政の視点を踏まえ～」と題して、8 月 28 日（水）に外部からの講師による講演をいただいたのち、グループワーク及び発表を行った。今年度は、外部評価者の参加をいただき、大変有意義な研修であったとの講評を得た。また、令和 2 年 3 月 2 日に延岡市教育長及び教育部長を招き、「3 つのポリシーを踏まえた各学科の中期計画の報告」や「授業アンケート結果報告」等について、自己点検・自己評価

委員会総会を開催し、現在の状況や大学として取り組んでいる状況に対して講評を受けた。

（4）南海トラフにより予想される巨大地震等の災害や火災事案等の有事に備えて、日頃から防災対策に取り組み、危機管理意識を高めるとともに、防災訓練等を通じて基本的な防災行動力を身に付け、地震・火災発生時に迅速かつ冷静沈着な対応が取れるよう防災力向上を図る。
⇒危機管理や防災意識を高める目的として、新入生にオリエンテーションでの防災教育及び携帯型の「台地

２．通信教育関係

（1）提携を交わしている専門学校だけでなく、各種協議会や企業との連携強化を図り、入学者確保に努める。
⇒提携先の「宮崎県社会福祉法人経営者協議会」の会員法人向けにチラシを配布や宮崎県社会福祉協議会の封筒へ広告掲載し入学者確保に努めた。また独自に福祉科を持つ高校へ訪問を行い、福祉科の教員の話を直接聞くことができ、チラシを配布し募集を行った。すぐに結果に結びつくことが難しいが、引き続き訪問等を行い募集に努める。

（2）社会福祉士国家試験対策の見直しを図り、より学生に効果的な策を講じ、合格率は全国平均以上を目指す。
⇒従来の東京アカデミーとの調整がつかず、新規で福岡の社会福祉士の先生および専門学校で国試対策を主に行っている先生方にお願いし開講し、学生の評価も高く国家試験合格率もアップした。

（3）授業アンケートを実施し、集計結果を通して学生の満足度の向上を目指し、教育内容や通信事務方法の改善に努めるとともに、引き続き学習相談会を開催し在学生のサポートを向上させる。
⇒授業アンケートはスクーリング科目において実施している。実習に関するアンケートも実施しており、アンケート結果に基づき、少しずつではあるが手続き等において改善している。
学習相談会については 3 月に開催予定のものが新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となったが、それ以前に開催した学習相談会には延人数 102 名の参加があった。

３．研究関係

教育研究に寄与するため次の事業を推進していく。

（１）科学研究費補助金等の申請について

積極的に文部科学省の科学研究費をはじめ、競争的資金制度に申請するように奨励する。

⇒本年度の科学研究費助成事業の新規者は 6 件、継続者を含めた補助事業件数は 23 件で、ここ 5 年間は横ばいの状況であり、今年度はさらなる補助事業者の増加を目指し奨励した。

補助事業件数　（単位：件）

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
継　続	21	18	17	16	17
新　規	6	7	7	6	6
合　計	27	25	24	22	23

9 月24・25日に令和2年度科学研究費助成事業公募要領等の説明会を開催し、今年度の申請件数は45件であった。引き続き科研費への申請を奨励し、採択率アップのための取り組みを行っていく。

（２）個人研究費について

個人研究費については、従来通りの研究業績に応じた配分方法を踏襲しているが、一部変更し、文部科学省の科学研究費の応募意欲の向上を目指す。

⇒今年度も研究業績に呼応した配分方法を実施した。

（３）学内共同研究費について

学長裁量の一環として、学内の研究活動の推進と学内の教育改革や学修環境の改善に取組むことを目的とし、研究費助成として「研究助成経費」と「地域創生事業助成経費」を、教育改革助成として「教育の質的転換」を設け、それぞれの研究活動の推進を図っている。具体的には、「研究助成経費」は教員の研究活動の推進を図り、「地域創生事業助成経費」は延岡市周辺の地域創生事業での社会貢献活動を、「教育の質的転換」は、教育方法や学修環境の改善を目的としている。

なお、申請者に対しては公平に審査、配分を行い、研究活動並びに地域貢献活動、教育の質の向上を推進する。

⇒今年度の研究経費助成については、科研費の審査結果を中心に審査を行い、応募件数 13 件のうち 11 件を採択した。また、地域創生事業経費助成については、応募件数 5 件のうち 4 件を採択した。

（４）外部資金導入の促進について

補助事業、受託事業、寄付事業など、外部からの助成金等を積極的に受け入れ、教育研究を推進するとともに、それを通じて社会貢献に寄与する。

⇒今年度は、科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業（CREST）1 件、戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン：北海道大学）1 件、受託研究 6 件、受託事業 7 件、学外共同研究 2 件、特別寄付 12 件を受け入れている。

4. 就職･進路指導計画

（１）就職希望者の就職率 100%を目指すとともに、数値目標だけでなく個人指導を重視した支援を通して、学生自身が自己の能力を見出し、向上することで、一人ひとりが満足できる進路に就職できるよう、質の高いキャリアサポートをする。

⇒日常業務の中では、学生との対面による個別面談に最も重点を置き、進路相談、履歴書・エントリーシートの添削指導、面接練習等を、地元ハローワークと連携して支援に取り組んでいる。人事採用担当者と直接話のできる就職面談会（社会福祉学部・薬学部動物生命薬科学科対象：本学会場〔7 月 6 日〕、生命医科学部対象：本学会場〔9 月 7 日〕、保健科学部対象：宮崎会場〔10 月 21 日〕、福岡会場〔10 月 30 日〕）を 4 年生対象に開催した。また、薬学部薬学科 5 年生を対象とした面談会を令和 2 年 3 月 7 日に計画していたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止の為、延期とした。さらに、就職情報サイトであるリクルートキャリア、マイナビおよびエムスリーキャリアの専門講師を招き、卒業前年度の学生を対象とした就職ガイダンスを開催した。その他、学生送迎用バスを手配し、各々の職種に合ったイベントに参加させた。最終の就職率は 97％であった。

（２）エンロールメントマネジメントの一環として、全学的に初年時よりキャリア教育に取り組むことで、自らの社会人・職業人としての将来像を鮮明に描かせ、就労意欲の向上を図ると同時に、各学科のキャリアサポート委員を中心とする全教員と綿密に連携することで、卒業者に占める就職希望者の割合 90%を達成させる。

⇒全学部全学科対象にインターンシップ説明会を（5 月 30 日）に開催した。また、早期から病院、調剤薬局等の各事業所と面談を行うことによるキャリア意識の醸成を目的とした「薬剤師の仕事説明会」を薬学部薬学科 3 年生対象に（6 月 29 日）に本学にて開催した。卒業生に占める就職希望者の割合は 77％であった。

（３）県内の各団体等と連携し、「Work　Café のべおか」などの催しを積極的に企画し、地元企業の情報および魅力を発信し、学生の地元就職への関心を高めることで、宮崎県内就職率 40%以上を目指す。

⇒延岡市、大学おうえん協議会、みやざき COC+と連携して、企業の魅力や働き方を企業の若手社員より学生に直接伝えるとともに、学生の生の声や考え方を情報交換・意見交換する場である「Work Café のべおか」を、全学部全学科対象に本学

にて 2 回開催し（4 月 24 日、12 月 18 日）、延岡市内を中心とし宮崎県内から多くの事業所の参加があった。宮崎県内就職率は 30％であった。

５．その他の事業

（１）「私立大学等改革総合支援事業」、「教育の質に係る客観的指標調査票」、「高等教育無償化制度導入」等で、求められている事項について、学内整備を行う。また、日本高等教育評価機構からの、改善を要する点について、取り組む。

⇒「高等教育無償化制度導入」については、求められている事項について、学内整備を行い、高等教育の修学支援新制度の対象機関として認定を受けた。「私立大学等改革総合支援事業」、「教育の質に係る客観的指標調査票」においても、求められている事項について、学内整備を行い、「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 1・タイプ 3 で申請し、選定された。引き続き、来年に向けて学内整備を行う予定である。

日本高等教育評価機構からの『参考意見』として、九州保健福祉大学教授会規程において、「学則及び九州保健福祉大学学長裁定事項との矛盾が生じないよう改正が望まれる。」との指摘を受けていたことから、教授会規程の第 2 条および第 4 条を変更し、併せて、九州保健福祉大学学長裁定に関する内規を制定した。

（２）地域との連携事業を推進する。

宮崎大学との連携により、今年最終年度をむかえる地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）に取り組む。延岡市との連携により、受託事業である「発達支援システム実践事業」や「定住自立圏フィールド調査事業」を引き続き実施する。

⇒宮崎大学との連携で事業 5 年目（最終年度）となる「みやざき COC+」については、定期的なサブコーディネーター（宮崎大学雇用）の協力を得ながら、各関連の部署内で対応した。

延岡市との連携事業としては、昨年に引き続き「発達支援システム構築事業」、「定住自立圏フィールド事業」に取り組んだ。

（３）延岡市教育委員会との共催である「のべおか子どもセンター」を開催し、親と子どものコミュニケーションづくりや家庭及び地域の子育て機能に貢献していく。

⇒例年どおり、延岡市教育委員会との共催により「のべおか子どもセンター」に取り組んでいる。

（４）延岡市から依頼を受けて実施している「のべおか市民大学院」を年間 11 回と本学が開催する公開講座を 6 回開催する。

⇒延岡市から委託を受けて「のべおか市民大学院」を 11 回実施した。今年度初めて実施した学内研修では、午前の部で卓球バレーを楽しみ、午後の部で「クリ

スマスツリー」を作り好評であった。

また、本学が開催する「公開講座」は、薬学部の教員により 6 回実施し、計 124 名の受講生が集まり好評だった。

（5）本学附属図書館では、平成 28 年度より、延岡市立図書館と認知症関連の書籍を主体とした共同企画展示をおこなっている。平成 30 年度は「日常生活でできる認知症予防」に関する図書を多く展示したところ、市民からの問い合わせや貸出申し込みが増加した。今年度も引き続き大学図書館と市立図書館の連携強化を図り、本学の教育・研究に対する地域住民の認知度を高めるよう取り組んでいく。また、ラーニングコモンズの利活用を促進し、アクティブラーニングと連動させ、学生が共に学び成長できる場としての附属図書館の積極的な活用を推進していく。

⇒平成 28 年度より行っている延岡市立図書館との共同企画展示は、今年度は第 1 回の共同企画展示を、「ひょっとして認知症？」のテーマで 7 月 9 日～7 月 28 日に延岡市立図書館にて開催した。簡便な認知症チェックシート等を配置したところ、約 200 名の利用があったことが報告された。第 2 回は令和 2 年 2 月 8 日～3 月 1 日に開催し、エンディングノートの見本展示などを行い反響があった。

また、ラーニングコモンズの利活用としては、特に利用の多い館内貸出用のタブレットパソコンを 17 台から 21 台に増設したが、使用頻度が高いだけに破損・劣化したものが多くなってきている。

今年度初めての試みとして、8 月に高校生対象の「オープンライブラリ」を行い、期間中の中高生入館者は 16 名だった。

順正高等看護福祉専門学校

Ⅰ．令和元年度教育方針

建学の理念の具現化を目指して、以下の教育活動を展開する。

１．受験生の増加を計り、入学定員を確保する
２．中途退学者０名、留年生０名をめざす
３．最終学年全員が国家資格を取得し、希望する進路に進める
４．学生の自律・自立を促す教育実践を行う
５．講義・演習・実習へと進化する学習体系に適応できるよう、種々の工夫を学生視線で構築する
６．下記のプロジェクトがＰＤＣＡを効果的に回し成果を出す
（１）国試対策
（２）入試広報（オープンキャンパス再考）
（３）カリキュラム検討
（４）教員研修検討

Ⅱ．各事業の概要

１．教育関係

（１）基礎学力強化を図るため、各学年における教育課題を明確にし、一貫した指導と実践評価を行う。

＜看護学科＞

１）国家試験対策プロジェクトを中心に、受験者の 100%合格を目指す。

①指導内容の統一

講義・実習での指導内容の精選と指導の質的レベルを一定にする

②教員一人ひとりが責任と役割を自覚し指導する

学生の到達度と課題を明確にしたうえで、１～３年までの各学年計画を一覧にし、計画に則り取り組んでいく。学生個々の成果が出るように、学生指導を行う。

⇒臨地実習が終了し、国試対策授業を計画的に導入。出題基準と対比しながら、授業内容を計画立案し国試対策に取り組んだ。

学生の状況を捉え、指導方法を工夫しながら 100%合格を目指したが、結果は 86.5%にとどまった。

２）シラバスを活用し重複・不足を確認するとともに不足内容は補足していく。
また、国家試験出題基準に照らして、教科内容・カリキュラムを検討する。

⇒本年度のシラバス内容を見直すとともに、看護基礎教育検討会報告書を参考にカリキュラムの検討を継続して行った。

＜介護学科＞

国家試験の 100%合格を目指し、学生個々の学習進度に合わせた丁寧な指導を行う。

① 学生理解

⇒定期的な模擬試験、ミニテストを実施し、学生個々の学習進度の把握を行った。講義が理解できていない学生には、ノートのまとめ方学習方法を指導した。

② 2年間を通して必要十分な知識・技術の習得

⇒各領域の教員が連携し、科目間で連動した教育が実施できるようにした。各学年で、学生の取り組みを分析し、指導計画に基づいて実施した。

③ 教育内容の充実

⇒シラバスを活用し、重複・不足を確認した。

（２）学外講師の意見や助言、示唆を尊重する。

＜看護学科＞

授業中の学生の状況を把握するために、可能な限り学外講師と情報交換しながら、学生指導にあたった。また、５月２４日に講師連絡会議を開き、学外講師間と本校教員の情報交換を図るとともに、対策についての討議を行う予定である。

⇒講師連絡会議を予定通り実施した。学生の現状を踏まえ、授業中の様子など意見を聞きながら学習力向上のための示唆を得て学生指導に活かすことができた。

また、今年度は高梁地区の病院での実習も多く組み込んだこと、訪問看護実習での学生のマナーなどに問題が生じたこともあり、対象病院・施設を変更し臨地実習指導者会議を開催した。各実習施設の代表者より有益な意見をいただき、学生指導への示唆をいただくことができた。

＜介護学科＞

⇒学外講師との連携を図るために、講義前後の時間に情報交換を行った。

講師連絡会議を実施し、学外講師と本校教員の情報交換を行った。

（３）保護者と密な連携をとり、ともに学生を支える関係を作る。

＜看護学科＞

保護者とチューター間の関係を構築し学生支援に当たる。日頃から、学生の状況を把握し必要に応じて保護者を交えた面談の実施、教育後援会および継灯式（1 年）後の個別懇談を実施する。メンタル面での問題に対しては、精神の専門教員が面談をし、保護者とも連携をとりながら、支援を行っていく。

⇒学業成績、出欠状況や学内で気になることがあれば、保護者と連絡を取りながら学生指導に当たった。

＜介護学科＞

⇒学生を通し、学習状況・出欠状況を伝え、必要であれば保護者との連絡を取ってきた。

（４）学生には丁寧な説明を心掛け納得・合意が得られるよう関わり、信頼関係を育てる。

教員一人一人が、授業や実習、ホームルーム、個人面接等を通して、その都度学生への説明と同意を得ながら物事を進める努力をする。また状況により、チューターのみでなく、学年団や役職教員が関り調整する。

⇒学生の反応を確認しながら、学生が理解できるように説明し同意を得ながら物事を進めることができた。

（５）低学力の学生には、個別指導・補講・学習の仕方などの教授を計画的に企図・実行するとともに、学年ごとの学力向上に向け取り組む。

＜看護学科＞

１年： ポートフォリオを活用し学習習慣が身につくよう支援する

入学前サポートでのワークブックを活用し、基礎学力の充足を図る。

解剖生理学の授業の後には、学習内容の復習のための学力対策を実施し、苦手意識を克服し学力向上に努める。

⇒課外で学力対策のための学習会を定期的に実施。学生が自ら学べる姿勢を身につけられるよう指導に当たった。

２年： 国家試験の過去問を活用し、求められる知識・判断力を自覚できるように指導する。

学習したことが実習の事前学習に活用できるよう、学生の個々の状況をふまえながら指導する。

⇒学修してきた内容をふまえて、国試に結び付けながら、課外で学力対策に取り組んだ。有料ではあるが、学外講師を招き学習方法や弱点克服ができるよう指導した。

３年： 模擬試験を有効活用し、合格圏に入れるよう成績状況をふまえ学習をサポートする。実施した模擬試験の見直しを行い、確実に知識が身につくよう指導する。

臨地実習での学びが、国家試験に直結することを意識させ、実習前・後の時間で出題基準や過去問を活用した試験を実施し、学力強化を図る。

⇒学生の状況に合わせた学習方法などを指導するとともに、個別指導を取り入れながら学力強化に取り組んだ。

＜介護学科＞

１年：提出期限を設けた課題やミニテストを実施した。

２年：定期的に模擬試験を実施し、学生の学力を分析した。

個別の学習計画を立て、学生が計画的に学習できるようにした。

留学生：4 時間／週の日本語学習を受講している。それ以外にも個別に日本語学習の時間を設けた。日本語強化学習としてロールプレイ、宿泊研修を実施した。

２．研究関係

（１）看護教育評価を行い、学会等への投稿に取り組む。

継続して教育評価を行い、来年度に向けたレビュー作成につないでいく。

日本看護教育学会に発表が決定している。

⇒日本看護教育学会で発表を行った。今後、岡山県看護協会高梁支部での発表ができるよう取り組んだ。

（２）学会、研修に各自参加し、看護・介護教員としての教育力・指導力の向上が専門職者育成に寄与できるよう努力する。

各教員が教員継続研修会、学会、国試験対策セミナーに参加し、教育力向上に向け自己研鑽に努める。

⇒各教員が、研修会に参加し自己研鑽に努めるとともに、教育に還元できるよう取り組んだ。

（３）学生が持つ問題や課題を学生自身が解決できるような教員のかかわりについて事例検討を通して学ぶ。

看護学科・介護学科共通で、指導力強化チームを立ち上げ、学生の理解と関わりや教員自身のストレスマネージメント、事例検討など定期的に勉強会を持つ予定である。

⇒検討会を 10 月 12 日土曜日に実施した。

３．就職・進路指導計画

（１）看護学科・介護福祉学科共に最高学年を対象に進路ガイダンスを数回実施し、将来の目標、適性等考慮して自己の進路決定、選択ができるよう指導する。

＜看護学科＞

進路ガイダンスを 3 月から 5 月にかけて実施する。進路希望調査（第三希望まで）を行い具体的な就職指導を行う。

⇒就職希望者全員が決定した。

＜介護学科＞

⇒8 月・10 月におかやま新卒ハローワークに行き、自己分析・職業適性検査や履歴書作成のポイントを学んだ。

（２）履歴書の書き方、小論文の書き方、面接要領等を具体的に指導する。

進路ガイダンスでは、外部講師による就職活動の進め方と履歴書の書き方の指導。

また、教職員による個別指導の他にも、ハローワーク相談員による個別対応（予約制）を行う予定である。

（３）現場で活躍している先輩、施設長、実習指導者に体験等を話してもらい、プロとしての生き方、考え方から自分の将来をイメージし、就活の参考にする。
本校卒業生に体験や入職時の様子を語ってもらい、就職後の自分がイメージできるようにする。

（４）学園主催の就職懇談会に参加し、参加した施設関係者との繋がりを大切にする

４．その他の事業

（１）校舎及び設備の老朽化に対処し、備品の更新を適切に行う。また、実習用具とその附属品の破損等をチェックする。
⇒実習用備品とその付属品の破損等をチェックし、適宜、教具の修理を行った。
３年間で計画している図書閲覧室の PC 更新を完了した。

（２）老朽化の進む学生寮（たかはし寮）を段階的に整備し、住環境の改善を通して寮生の満足度を高め、入寮者の増加を図る。
⇒厨房の衛生確保のために、レンジフードの塗装剥離防止と、排水ドレンのバキューム清掃を行った。

九州保健福祉大学総合医療専門学校

Ⅰ．令和元年度教育方針

【 学校全体の目標 】

１．看護学科は、国家試験合格率 100%を維持する。
　鍼灸学科は新卒、既卒ともに全国平均を上回る
２．退学者を限りなくゼロに近づける努力を継続する。
３．学生の能力に応じた各教員(実習指導教員を含む)の指導能力の向上を図る。
４．事務室と連携し、入学定員充足率 100%を維持する。
　⇒看護学科は 3 年連続国家試験合格率 100%を達成したが、鍼灸学科は全国平均を下回った。
　退学者は 4 名と昨年度より減少した。
　令和 2 年度入試の入学定員充足率は 83.3%と未達だった。

Ⅱ．各事業の概要

１．教育関係

（1）看護学科

【今年度の目標】

１．全国模試で上位の成績を維持し、看護師国家試験合格 100％を維持する。
２．学生の就学上困難な徴候を見逃さず、早急に対応することで退学者を減少させる。
３．講義・実習ともに教員の指導能力の向上を図る。
４．事務室と連携し入学定員充足率 100％以上を維持する。

【具体的な手立て】

１．全国模試で上位の成績を維持し、看護師国家試験合格 100％を維持する。
　１）各学年運営の指導計画を立案し、段階的に主体的に知識が習得できる具体的な方法を示す。
　２）教員ひとりひとりが国家試験の出題傾向を踏まえた講義、実習指導を実践する。
　３）成績不振の学生の学習状況、生活状況などの原因を分析し時宜を逸せず担任やチューターなどが面談し解決策を検討する。
　４）臨地実習において、自分で思考し実践、評価修正していく力を引出すとともに、講義を想起させ知識の定着を図る。
　５）臨地実習では指導者と協力し、学生にとって効果的に学ぶことができる環境を整え、看護の魅力を体感できるよう関わる。
　⇒学年ごとに指導案を立案し、教員一人一人が国家試験を考慮した実習指導、講義実践した。模擬試験の学校偏差値は概ね 50 以上を維持したが、偏差値は 40 未満の学生もおり、個別に対応し成績向上を図かり、全員合格でき合格率 100%を維持できた。

２．学生の就学上困難な徴候を見逃さず、早急に対応することで退学者を減少させる。

１）学生の心身の変化を見逃さず対策を講じ、適切に介入できる教員が関わり、本人や保護者を交えて面談し解決策を検討する。

２）入学時より看護に魅力を感じ、看護師の資格取得に意欲が高まるように講義や実習を通し関わる。

３）入学後の学習の不安や成績不振を改善するため、入学前教育の導入を検討する

４）学年を越えた行事やイベントを企画し、学生同士が交流できる場を増やす。

⇒教員間で学生の情報交換をすることにより状況を把握し、成績やメンタル面、生活面などで気になる学生には適宜、本人及び保護者を交えて面談し早期の問題解決に努めた。また、学校生活に不安を抱かず、魅力を感じられるよう、学年を超えた交流を実施した。結果、退学者は昨年度より 72.2%（11 名から 3 名）減少した。

３．講義・実習ともに教員の指導能力の向上を図る。

１）領域や専門分野を超えて学生の効果的な学習方法を勘案し、教育内容の精選・充実を図る。

２）学生の主体性、満足度、理解力を引き上げるために、教育方法などについて外部研修を受講し、学内で共有し教員全体の教育力向上を目指す。

３）臨地実習での指導状況の情報共有をし、学生にとって効果的な指導を検討し、教育の質の向上を図る。

⇒講義や実習での指導状況を教員間で共有するとともに、教育内容や教育方法などを相談しやすい環境を整えた。また、教員各自が自発的かつ計画的に研修会やセミナーに参加し、終了後は復命書や資料を回覧し、知識を共有することにより、看護学科全体としての教育力の向上を図り学生に還元できるよう各自が工夫した。

４．事務室と連携し入学定員充足率100%以上を維持する。

１）県内の高校生及び実習施設に本校の特色を理解していただくため、事務室と連携し、学校紹介に繋がる行事やイベントに参加しＰＲする。

２）実習施設と連携を密にし、実習生だけでなく就職している卒業生の情報収集をし、適宜、指導、改善を図る。

３）看護師として人として、地域の中で求められる人材を送り出すことで、本校の社会的評価や信頼度を高め、受験希望者の増加に繋げていく。

⇒入学定員の維持に繋がるよう、事務室と連携しオープンスクールや学校紹介に関する行事やイベントには参加し積極的に PR を行ったが、入学者 50 名（充足率 83.3%）と開校来初めて定員を満たすことができなかった。

（2） 鍼灸学科

【今年度の目標】

1．新卒生は国家試験合格率 100%を目指す。

2．退学者を０にする。

3．既卒生は国家試験合格率全国平均以上を目指す。

4．個々の能力を評価し、それに応じた指導を実施する。

【具体的な手だて】

1．新卒生は国家試験合格率 100%を目指す。

1）担任を中心とした個別指導の徹底をはかる。

2）国家試験教科毎の出題数や内容変更を踏まえ、受験対策講義を実施する。

3）国家試験の出題傾向を分析し、国試対策講義に活かし弱点強化を図る。

4）業者模試の得点率を 12 月までに 15%アップさせる。

⇒国家試験合格率は全国平均に達しなかった。

2．退学者を 0 にする。

1）学習状況や生活態度の変化を見逃さないよう、頻繁に担任やチューターが面談を行い、教員間でその情報を共有し、適切な支援指導に努める。

⇒病気療養が必要な学生 1 名が退学した。

3．既卒生は国家試験合格率全国平均以上を目指す。

1）模擬試験、受検対策講義への参加を強く促す。

⇒全国平均に届かなかった。

4．個々の能力を評価し、それに応じた指導を実施する。

1）個別指導の徹底をはかり、問題点を把握し早急に対応する。

2）学生が自信をもって国家試験に臨めるよう支援する。

⇒計画どおり実施したが、満足できる結果でなかった。

2．事務関係

（1）事務室

【今年度の目標 】

1．入学定員充足率 100%を維持する。

2．入学志願者数の増加傾向を維持する。

3．退学者数を減少させ、0 を目指す。

4．適正な予算執行

5．両学科の国家試験対策の支援。国家試験新卒合格率 100%達成

【具体的な手だて】

1．入学定員充足率 100%を維持する。

⇒平成 31 年度入試では 65 名（定員 60 名）が入学したが、令和 2 年度入試（令和元年度実施）の入学者は 50 名と減少し、入学定員充足率は 83.3%と大幅に未達だった。

２．入学志願者数の増加傾向を維持する。

⇒平成 31 年度入試の志願者数は 121 名だったが、令和 2 年度入試の入学志願者数は 98 人と 2 割弱減少した。

１）学校見学会前又は各入試の前後など効果的な時期に反復して高校訪問を実施し、高校教員と信頼関係を構築することにより志願者増に繋げる。

２）進学説明会(業者説明会等)に積極的に参加する。

３）教職員とともに教育的イベント等に積極的に参加し、本校看護学科の知名度を　向上させる。

４）在学生を前面に出すなど学校見学会を改善する。

３．退学者数を減少させ、0 を目指す。

⇒退学者対策を実施した結果、本年度は 4 名(昨年度 12 名)と減少させた。

１）看護学科とともに同学年間又は学年を跨がった学生の交流イベントを実施する。

２）問題を抱える学生の情報を教員と事務職員とで共有し、対策に活かす。

３）学生及び保護者との面談の更なる充実を図る。

４）教学面以外で問題がある場合、事務職員との面談の実施に努める。

４．適正な予算執行

⇒教職員会議で昨年同時期と比較しつつ使用電力量を報告した。併せて予算執行計画や執行状況を説明し、経費節減への協力を要請した。水銀灯の LED 化、全ての Windows7 パソコンを Windows10 パソコンに更新、地下扉の更新等を計画どおり実施した。

１）教職員の経費削減意識の醸成のため、毎月の教職員会議で節電の進捗や執行状況を報告する。

２）緊急度、金額等様々な条件を精査検討し計画的に予算執行する。雨漏り対策、Windows7 パソコンを消費税増税前に全て更新、施設設備の補修、LED 電灯への更新等を進める。

５．　両学科の国家試験対策の支援。国家試験新卒合格率 100%達成

⇒看護学科は 3 年連続国家試験合格率 100%を達成したが、鍼灸学科は新卒既卒ともに全国平均に未達だった。

１）両学科と学生情報を共有し、積極的な窓口指導を実施する。

順正学園設置校　国家資格合格率表　（令和元年度）

設置校	吉備国際大学																		順正高等看護福祉専門学校					
学部学科	看護学科						理学療法学科			作業療法学科			社会福祉学科						看護学科			介護福祉学科		
資　格	看護師			保健師			理学療法士			作業療法士			社会福祉士			精神保健福祉士			看護師			介護福祉士		
区　分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計
受験者数	57	4	61	14	5	19	54	7	61	24	29	53	3	140	143	2	12	14	37	7	44	10	0	3
合格者数	52	2	54	12	4	16	50	3	53	20	20	40	3	9	12	2	1	3	32	5	37	6	0	3
合 格 率	91.2%	50.0%	88.5%	85.7%	80.0%	84.2%	92.6%	42.9%	86.9%	83.3%	69.0%	75.5%	100.0%	6.4%	8.4%	100.0%	8.3%	21.4%	86.5%	71.4%	84.1%	60.0%	#DIV/0!	100.0%
全国平均	94.7%		89.2%	96.3%		91.5%	93.2%		86.4%	94.2.%		87.3%	56.0%	12.8%	29.1%	74.0%	19.1%	54.0%	94.7%	－	89.2%	－	－	80.0%
													※1	※2	※3			※4						

設置校	九州保健福祉大学																															
学部学科	作業療法学科			言語聴覚療法学科			視機能療法学科			視機能療法学科（別科）			臨床工学科			臨床工学別科			通信教育部			社会福祉学部						薬学部			
資　格	作業療法士			言語聴覚士			視能訓練士			視能訓練士			臨床工学技士			臨床工学技士			社会福祉士			社会福祉士			精神保健福祉士			薬剤師			
区　分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒（6年制）	既卒（4年制）	合計
受験者数	24	10	34	26	9	35	12	－	12	10	－	10	13	1	14	3	－	3	64	161	225	28	156	184	9	10	19	68	73	1	142
合格者数	21	8	29	14	2	16	12	－	12	10	－	10	12	1	13	3	－	3	32	21	53	14	15	29	8	2	10	55	27	0	82
合 格 率	87.5%	80.0%	85.3%	53.8%	22.2%	45.7%	100.0%	－	100.0%	100.0%	－	100.0%	92.3%	100.0%	92.9%	100.0%	－	100.0%	50.0%	13.0%	23.6%	50.0%	9.6%	15.8%	88.9%	20.0%	52.6%	80.88%	36.99%	0.00%	57.75%
全国平均	94.2%	66.3%	87.3%			65.4%			97.7%			97.7%			82.1%			82.1%	56.0%	12.8%	29.1%	56.0%	12.8%	29.1%	74.0%	19.1%	54.0%	84.78%	42.67%	36.10%	69.58%
																			※1	※2	※3	※1	※2	※3	※1	※2	※4				

設置校	九州保健福祉大学												九州保健福祉大学総合医療専門学校								
学部学科	健康スポーツ福祉学科						臨床福祉学科			生命医科学科			鍼灸学科						看護学科		
資　格	はり師			きゆう師			介護福祉士			臨床検査技師			はり師			きゆう師			看護師		
区　分	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計
受験者数	9	2	11	9	2	11	5	－	5	42	27	69	4	7	11	4	4	8	53	0	53
合格者数	6	0	6	6	0	6	4	－	4	30	4	34	3	1	4	3	1	4	53	0	53
合 格 率	66.7%	0.0%	54.5%	66.7%	0.0%	54.5%	80.0%	－	80.0%	71.4%	14.8%	49.3%	75.0%	14.3%	36.4%	75.0%	25.0%	50.0%	100.0%	#DIV/0!	100.0%
全国平均			73.6%			74.3%			69.9%	83.1%	21.7%	71.5%	89.3%	17.4%	73.6%	88.9%	14.4%	74.3%	94.7.%		89.2%

注

※1：福祉系大学等の新卒合格率

※2：福祉系大学等の既卒合格率

※3：福祉系大学等の全体合格率（全体の合格率は29.3%）

※4：福祉系大学等の全体合格率（全体の合格率は62.1%）